

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成28年11月】

■調査概要（データ対象期間：平成28年11月1日～11月30日）

- 調査期間：平成28年12月1日～12月16日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業24企業、製造業22企業、卸売業16企業、小売業30企業  
飲食業14企業、サービス44企業（運輸、不動産仲介業を含む）  
<合計150企業>
- 調査項目：11月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価  
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

（注）DI（Diffusion Index）値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

松本市・松本商工会議所

# 概況

業況DIはマイナス幅が縮小・水準DIはマイナス幅が拡大

## 1. 業況判断

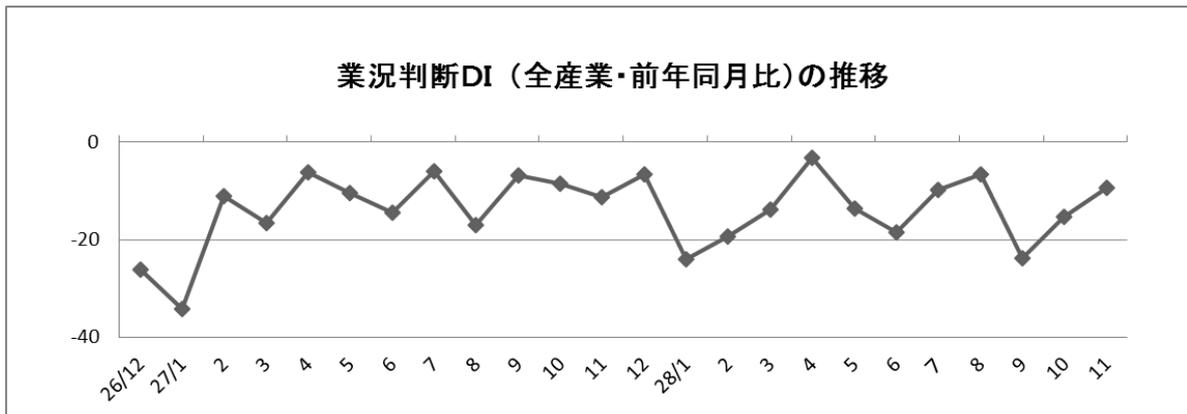
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲15.4）よりマイナス幅が6.0ポイント縮小し、▲9.4となった。業種別では、卸売業、サービス業はマイナスからプラスに転じた。建設業、製造業はマイナス幅が縮小した。小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲16.0）よりマイナス幅が2.6ポイント拡大し、▲18.6となった。業種別では、製造業、卸売業はマイナス幅が縮小した。サービス業、建設業、小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	15.3 (13.3)	60.0 (58.0)	24.7 (28.7)	▲9.4 (▲15.4)	10.7 (11.3)	60.0 (61.4)	29.3 (27.3)	▲18.6 (▲16.0)
建設業	12.5 (8.7)	62.5 (60.9)	25.0 (30.4)	▲12.5 (▲21.7)	4.2 (4.3)	66.6 (74.0)	29.2 (21.7)	▲25.0 (▲17.4)
製造業	18.2 (17.4)	45.4 (43.5)	36.4 (39.1)	▲18.2 (▲21.7)	22.7 (13.0)	40.9 (47.9)	36.4 (39.1)	▲13.7 (▲26.1)
卸売業	25.0 (7.7)	56.2 (46.1)	18.8 (46.2)	6.2 (▲38.5)	6.3 (7.7)	74.9 (61.5)	18.8 (30.8)	▲12.5 (▲23.1)
小売業	10.0 (17.1)	66.7 (54.3)	23.3 (28.6)	▲13.3 (▲11.5)	6.7 (17.1)	63.3 (54.3)	30.0 (28.6)	▲23.3 (▲11.5)
飲食業	7.1 (18.8)	50.0 (49.9)	42.9 (31.3)	▲35.8 (▲12.5)	0.0 (6.3)	50.0 (56.2)	50.0 (37.5)	▲50.0 (▲31.2)
サービス業	18.2 (10.0)	65.9 (75.0)	15.9 (15.0)	2.3 (▲5.0)	15.9 (12.5)	61.4 (70.0)	22.7 (17.5)	▲6.8 (▲5.0)

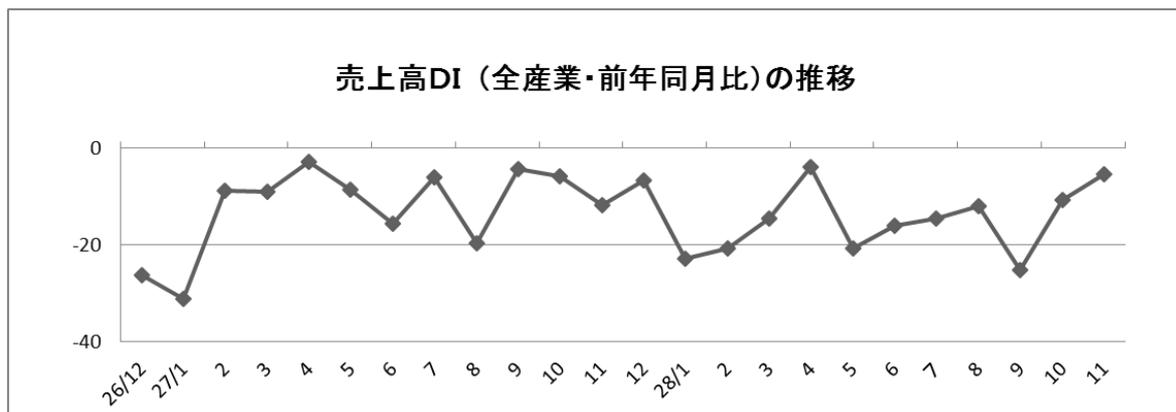
( )内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計  
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



## 2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲10.7）よりマイナス幅が5.4ポイント縮小し、▲5.3となった。業種別に見ると、サービス業はプラス幅が拡大し、卸売業はマイナスからプラスに転じた。製造業、建設業はマイナス幅が縮小した。小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

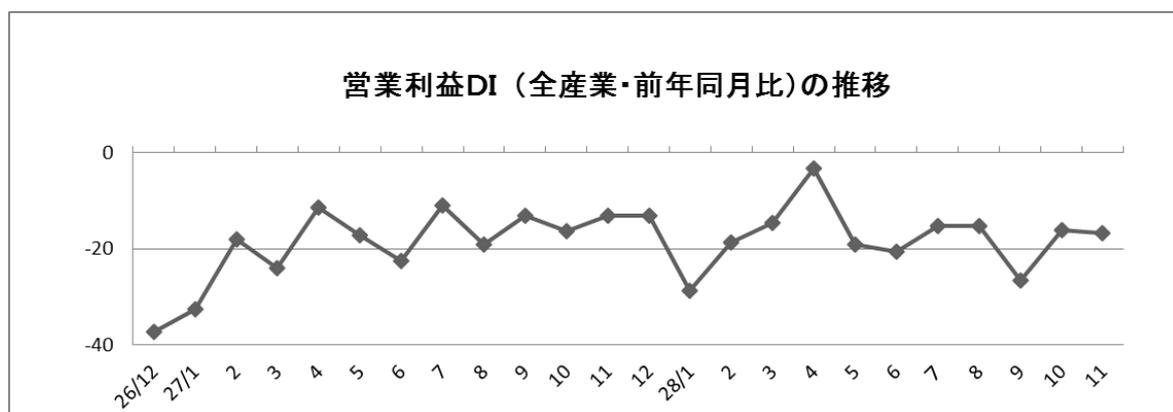


**【対前年同月比売上高業種別DIの推移】**

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全 体	▲ 11.8	▲ 6.6	▲ 22.7	▲ 20.7	▲ 14.5	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 14.6	▲ 12.0	▲ 25.1	▲ 10.7	▲ 5.3
建 設 業	▲ 20.9	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5
製 造 業	35.0	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5
卸 売 業	▲ 18.7	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2
小 売 業	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6	▲ 13.4
飲 食 業	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6
サービス業	▲ 9.5	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8

## 3. 営業利益DI（前年同月比）

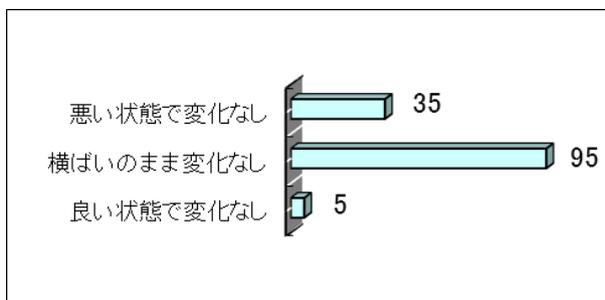
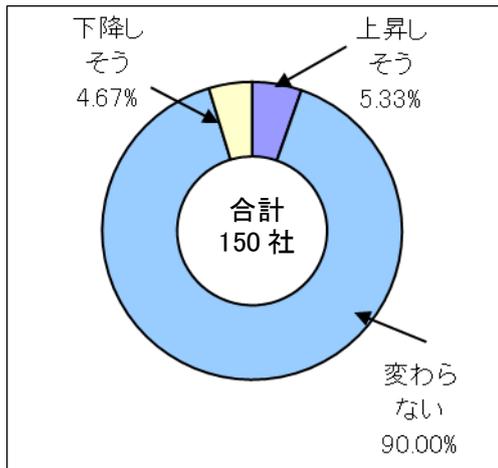
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲16.0）よりマイナス幅が0.7ポイント拡大し、▲16.7となった。業種別に見ると、サービス業は0からプラスになり、製造業、卸売業はマイナス幅が縮小した。飲食業、建設業、小売業はマイナス幅が拡大した。



**【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】**

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全 体	▲ 13.1	▲ 13.2	▲ 28.7	▲ 18.7	▲ 14.5	▲ 3.2	▲ 19.2	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 15.3	▲ 26.5	▲ 16.0	▲ 16.7
建 設 業	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2
製 造 業	20.0	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7
卸 売 業	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2
小 売 業	▲ 30.6	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 23.3
飲 食 業	▲ 28.6	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9
サービス業	▲ 9.5	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



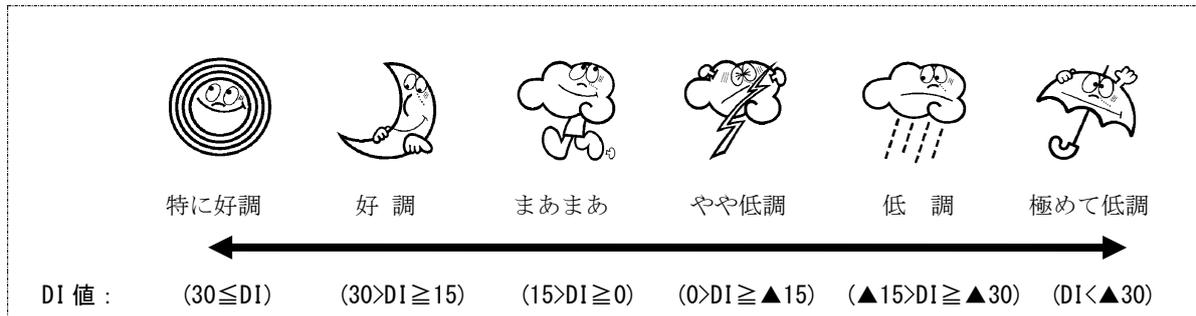
○平成28年12月～平成29年2月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.67ポイント減少し5.33%、「下降しそう」が0.66ポイント減少し4.67%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲4.1)、製造業(0.0)、卸売業(0.0)、小売業(0.0)、飲食業(0.0)、サービス業(4.5)であった。

➡「上昇しそう」では、「新規品流動のため」(製造業)、「住宅着工が好調なため」(卸売業)、「年末年始は繁忙期なため」(小売業)、「忘年会、おせち料理に大きく期待しているため」(飲食業)、「車検台数、点検台数が多いため」「前年同期が悪かったため、最低でも前年並み以上を確保したいため」「スキー場の状況が昨年より良いと予想されるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

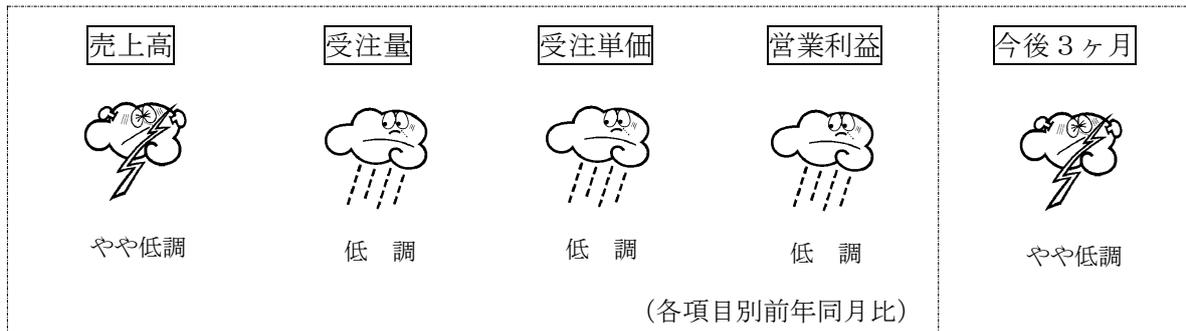
➡「下降しそう」では、「冬場は受注量が少ないため」(建設業)、「11月が良すぎたのと、米国の内向き姿勢の影響のため」「例年1月、2月は売上が落ちるため」(製造業)、「薬価改定の影響のため」(卸売業)、「閑散期のため」(飲食業)、「休業するため」(サービス業)といった声が寄せられた。

# 業種別景況

## <D I 君の景況判断>



## 1. 建設業



【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売 上 高	▲ 20.9	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5
受 注 量	▲ 29.2	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 16.7	▲ 16.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 38.1	▲ 4.7	▲ 13.1	▲ 20.8
受 注 単 価	▲ 8.3	▲ 8.0	▲ 20.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 8.3	4.4	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 26.1	▲ 16.6
営 業 利 益	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2
見 通 し	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 12.0	8.0	0.0	▲ 4.0	▲ 4.0	12.5	4.3	▲ 4.8	9.5	▲ 8.7	▲ 4.1

## <経営者の目・見方・e t c >

鉄工

- ・各社の手持ち量、稼働率は若干ばらつきがあるが、来年の4月までの仕事量は確保し、順調な状況である。受注単価をもう少し改善したい。
- ・建設工事の専門工事事業者の技術者、技能者の高齢化が一層進んでいる。10年、20年先のことを考えて、雇用と育成を考えないと深刻な状況に陥ってしまうのではないかと不安である。

土木工事

- ・建設業界全般としては低調気味である。本来は10月までに受注工事量を確保し3月年度末を見通すが、今年は発注量、受注量ともに少ない。

電気工事

- ・何日か続けて仕事がない状態がつづいている。半日程で終わってしまう仕事ばかりだと、経費倒れで赤字が増えてしまい苦勞している。

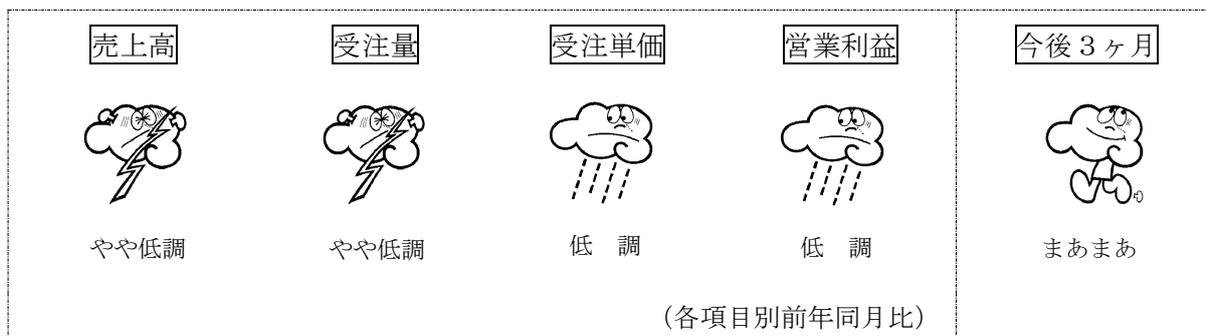
管工事

- ・年末までは前年より少し良かったが、新年度の見込みは不透明である。あまり良い状況とはいえない。

総合建設

- ・9月補正予算があまりついていない。

## 2. 製造業



### 【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	35.0	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5
受注量	20.0	▲ 5.3	▲ 12.5	▲ 19.1	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 28.6	0.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 39.1	▲ 26.1	▲ 13.7
受注単価	▲ 10.0	▲ 21.1	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 28.5	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 27.3
営業利益	20.0	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7
見通し	5.0	▲ 15.8	4.2	14.3	▲ 33.3	8.7	4.7	▲ 5.0	10.0	▲ 10.0	▲ 8.7	4.4	0.0

### <経営者の目・見方・e t c >

金属塗装

・9月、10月より多少受注、売上が増加してきたが、この傾向は12月には少し低下していくと予想される。米国、韓国の状況が影響してくるのではないかと心配である。

精密機械

・大型案件に救われたが、全体としては低調気味である。

小型情報機器組立

・先の見えない事が多く、大変苦勞している。

印刷

・出版業界としては、まだまだ横ばいの状況である。書籍関係は12月～3月まで繁忙期になるが、売上が昨年より増加するかは不明である。原材料である紙・インク等の価格は横ばいの状況である。

豆腐

・同業他社は全体的に低調のようである。

## 3. 卸売業



### 【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 18.7	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2
販売客数	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 35.7	▲ 6.3	▲ 6.7	▲ 23.1	▲ 16.7	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 14.3	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 6.2
販売客単価	▲ 25.0	▲ 21.5	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 7.7	0.0	6.3
営業利益	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2
見通し	▲ 12.5	▲ 21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	8.3	▲ 7.1	0.0	7.1	▲ 7.7	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 土産品
  - ・全体的に低調ではあるが、製造原価などの見直しもあり、昨年より売上、利益とも増加している。県内外共に地域間格差が拡大しており、集客の多い所への営業活動を増やしている。
- 青果
  - ・8月の台風、9月、10月の長雨等の影響が今月も続いた。野菜、果物ともに高値で、品質も決して良いとは言えず、消費者にとっては厳しい1カ月となった。
- 機械工具
  - ・相変わらず先行き不透明である。
  - ・全体的に経済が停滞してきた印象がある。
- 金属製品
  - ・ここに来て、相場は高めの傾向が出始めている。高炉メーカーは原料が高くなっているため、値上げの圧力をかけてきており、この影響は年明けもしばらく続く見込みである。

## 4. 小売業

<b>売上高</b>	<b>販売客数</b>	<b>販売客単価</b>	<b>営業利益</b>	<b>今後3ヶ月</b>
				
やや低調	低調	低調	低調	まあまあ
(各項目別前年同月比)				

【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6	▲ 13.4
販売客数	▲ 11.2	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 24.2	▲ 3.0	▲ 11.4	▲ 24.2	▲ 11.8	▲ 6.1	▲ 29.4	▲ 5.7	▲ 23.3
販売客単価	▲ 22.2	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 37.5	▲ 9.1	0.0	▲ 22.8	▲ 18.1	▲ 17.7	▲ 12.1	▲ 23.6	▲ 22.9	▲ 20.0
営業利益	▲ 30.6	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 23.3
見通し	▲ 2.8	0.0	▲ 3.1	0.0	6.1	2.9	▲ 2.8	0.0	▲ 2.9	▲ 6.1	▲ 5.9	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 印章
  - ・福井県越前町が「越前ガニを食べに来てください」という趣旨のCMを流していた。松本市は北陸地方に「松本に来てください」というCMを打っているのだろうか。自分たちの良いところを知ってもらったり、体験してもらうように告知しなければ、誰も来てくれないのではないだろうか。
  - ・本年度の技能競技会での手彫り作業で、大臣表彰者やその他の受賞者が県内からも多数出ている。
- ギフト商品・カレンダー
  - ・2017年秋に、テナント170店、スーパー、映画館から成るイオンモール松本がオープン予定。すべての業種を取り揃えており、とても便利。渋滞の懸念よりも「見たい」「知りたい」「買いたい」といった気持ちが強いが、個人店としては対策を考えていかなければならない。
- ・うちわ

観光物産

・11月15日までの上高地開山期間中は比較的人の流れは良かったが、16日以降は来訪者が激減した。りんごの品質低下によって贈答品の売上も減少している。

住宅機器

・忙しくなってきたが、仕事量は前年並みである。

ショッピングセンター

・気温が順調に低下して衣料品には好影響だったものの、11月下旬の降雪によりややペースダウンとなった。首都圏は残暑の反動で11月の売上が伸長した地域が多かったようであるが、松本に関しては大きな変動が見られなかった。

パン

・お客様は、より一層価格の低いもの、価値を感じられるものに移行していると感じる。

・上高地、美ヶ原等の観光シーズンが終わったので、クリスマス、年末に向けて気持ちを入れて頑張りたい。

陶磁器

・天候も気温も安定し、概ね平年並みの商いであった。市民祭松本まつりも賑わった。次期米国大統領ドナルド・トランプ氏の就任により、過度の円安が進むと、輸入物価が上昇する事が予想されるため、今後の仕入価格の動向が心配である。

生鮮食品

・春からずっと前年より好調だったが、11月は良くなかった。

薬局

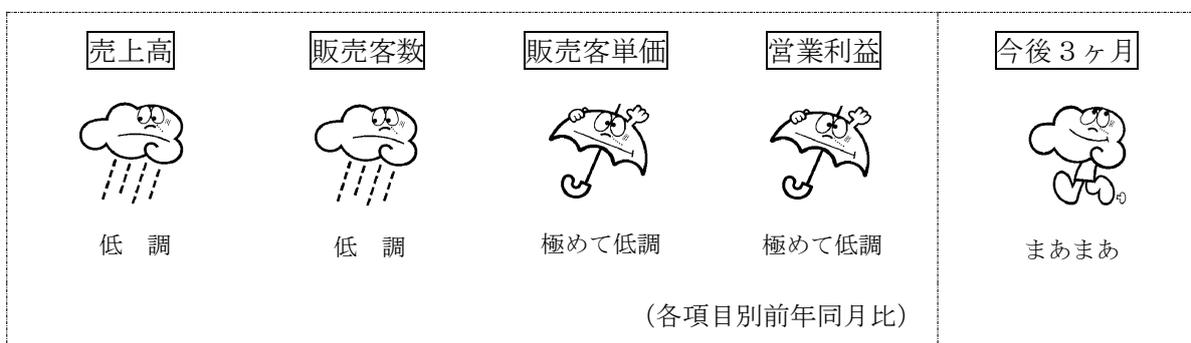
・キャンペーンを打ったため、なんとか例年並みであった。

菓子

・11月前半は観光客、特に外国人観光客も多かったが、下旬にかけては人の出が少なかった。イベントが多いと観光客が来るため売上増加に直結する。



## 5. 飲食業



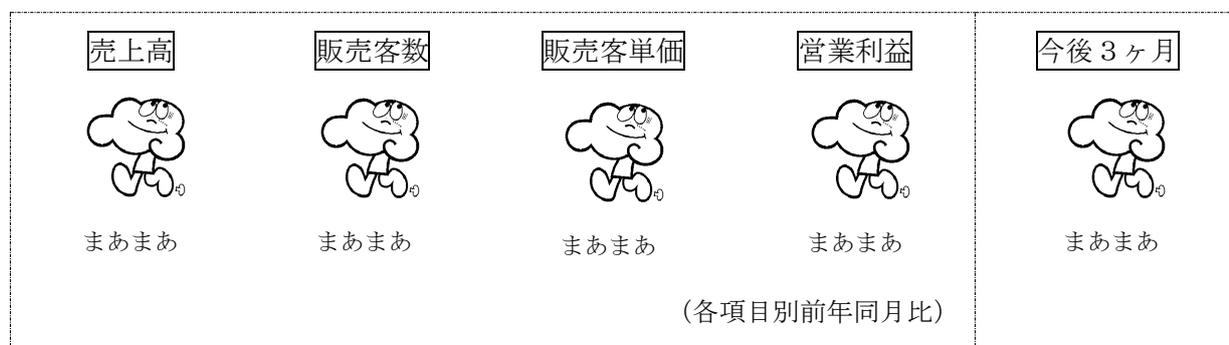
### 【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6
販売客数	▲ 28.6	▲ 12.5	▲ 31.2	▲ 46.1	▲ 13.4	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 42.9	▲ 33.4	▲ 5.6	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 28.6
販売客単価	▲ 28.6	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 28.6	▲ 26.7	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.8
営業利益	▲ 28.6	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9
見通し	▲ 7.2	▲ 25.0	6.2	15.4	▲ 6.6	0.0	▲ 20.0	7.2	6.6	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0

<経営者の目・見方・etc>

- 寿司
  - ・本格的にフグ料理の時期になってきたが、フグの原価が昨年同時期と比べ3割から4割程度高くなっている。値上げをしないで何とかしのぎたいが、赤字になるのは避けたいと思っている。
  - ・忘年会シーズンを迎えるにあたって、お客様の動向に大きな変化を感じる。昨年と同じ会社の方でも部単位から課単位へ、また法人需要でなくても少人数での宴会が多くなったように感じる。今後もそういった需要の変化にあった提案と営業を心掛けていきたい。
- そば
  - ・野菜の高騰など年末に向けて不安が残る月だった。
- 郷土料理
  - ・祝日、週末は集客があり、10月の落ち込みを幾分補ったが、平日は暇な状況が当たり前になってきており、危機感を感じている。
- 料理
  - ・お客様の動きが悪く、仕入価格も高かったため、全ての見直しをしなければいけないと感じた月であった。
- 食堂
  - ・宴会の予約数が減っており、これからの宴会シーズン先行きが不安である。

## 6. サービス業



【項目別DIの推移】

	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 9.5	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8
販売客数	▲ 9.5	2.1	▲ 23.1	▲ 2.3	▲ 6.8	▲ 2.3	▲ 11.7	▲ 15.5	▲ 8.7	▲ 4.5	▲ 22.7	0.0	4.6
販売客単価	▲ 4.7	4.3	▲ 23.0	0.0	▲ 2.2	4.5	9.3	▲ 4.4	▲ 4.4	4.5	0.0	▲ 2.5	6.8
営業利益	▲ 9.5	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3
見通し	0.0	0.0	2.6	0.0	▲ 2.3	6.7	2.3	2.2	0.0	4.6	9.1	10.0	4.5

<経営者の目・見方・etc>

- 温泉旅館
  - ・NHK大河ドラマ「真田丸」の影響で松本にも好影響が期待されたが、思った程の効果はなかった。インバウンドの客数も昨年より少なかったが、為替は「円安ドル高」傾向なので、インバウンドの客数増を期待したい。
  - ・今年は、11月に入っても暖かく山に雪が無かったので、それを目当てにきた観光客にとっては残念だった。
  - ・前年と比較すると、今年は繁忙期の外国人観光客の宿泊がまばらであり、厳しい状態だった。

旅館	・前年度と比較すると、営業利益、売上は横ばいだが、2～3年前と比べると5%以上下降している月もある。
美容	・お客様1人1人にアプローチして、年内にもう一度来店していただけるように、次回の予約をしていただけるように従業員に声掛けしていきたい。
自動車整備 ・板金塗装	・アベノミクスもなんだったのだろうという感じで、中小企業にとって良い話はなかった。早い時期から雪が降り、今後タイヤ交換の仕事が少なくなってしまうことに不安を感じる。
獣医	・11月になると北方からの渡り鳥が日本へと飛来してくるが、それと同時に鳥インフルエンザが心配になってくる。鳥インフルエンザの中には、人に感染する高病原性ウイルスもあるため注意が必要である。
写真	・経営状況全般としては堅調な状況が続いている。
タクシー	・11月中旬で紅葉シーズンが終わり、上高地方面での営業が終了したため、全車が市街地での営業となった。不安定な天候で今シーズンは前年より悪かった。
機械設計	・年度末に向けての仕事が多く、製造業への投資があるが、円安になるかが懸念材料である。
ソフトウェア	・一時期よりも顧客のIT投資に関する意欲は回復していると感じられる。ただ規模の小さいシステムハウスの場合常駐型案件に食いつかざるを得ず、人の移動を管理するだけ、技術もその場限りとなり、提案型の仕事が苦手になるという悪循環に陥る。
保険	・長期金利が引き続き低くなっており、運用が厳しい。来春保険料の値上げがありそうである。
ペットサービス	・来店数、売上高ともに前年を上回った。社員1人1人の努力が成果となってきている。12月は繁忙期なので全社員体調管理に気をつけていきたい。
介護サービス	・高齢者の負担が増加していると感じる。
マナー講師	・昨年同様11月は、企業研修がいくつかあった。季節の節目であるため、マナー等を見直すところが多くなっているように感じる。今後もさらにこの傾向は強まっていくと思われる。

